

## 連合福島第37回定期大会開かれる

### 福島の復興・創生に全力を尽くそう！

#### ～仲間の輪を広げ 安心社会をめざす～

連合福島第37回定期大会は、10月26日福島市のホテル福島グリーンパレスにおいて、役員・代議員など約250名が出席し4年ぶりに通常開催された。

冒頭、澤田精一連合福島会長は『連合福島2024～2025年度運動方針では、ナショナルセンターの責務として、すべての働く仲間を守り、つなぐための集团的労使関係の追求と、社会に広がりある運動を推進することを第一に掲げた。すべての働く人にとって連合福島・労働組合が「必ずそばにいる存在」となるべく、次世代を担う若い世代の視点も取り入れながら、連合の旗のもとで皆さんとともに新たなステージに向けた運動を進めていく。福島県は残念ながら、自然災害が頻発している。その意味では、自助・共助を目的とした組合の存在と運動は、益々重要性を増し、運動の充



挨拶する澤田精一会長

実と強化の必要性が高まっ

ている。私たち連合福島は、誰一人取り残されることのない、「包摂」を理念に掲げ、「働くことを軸とする安心社会」の実現のため、自信をもって、力強く運動を進めなければならない』と挨拶した。

続いて、来賓の村上陽子連合本部副事務局長、佐藤宏隆福島県副知事、井口真嘉福島労働局長、金子恵美立憲民主党県連代表、村澤智国民民主党県連政調会長、中村孝太郎社会民主党県連副代表、玄葉光一郎衆議院議員、小熊慎司衆議院議員、馬場雄基衆議院議員、瓜生信一郎県民



来賓挨拶 連合本部村上陽子 副事務局長



会場の代議員の様子

連合会長から祝辞が述べられた。一般活動報告については賛成多数で承認された。

また、議案審議に先立ち、新規加盟組合1組合が紹介され連合福島旗が授与された。第1号議案『2024～2025年度運動方針について(案)』には、自治労・鈴木代議員、私鉄総連・菅野代議員及び電機連合・渡辺代議員から意見・要望があり、執行部の見解を以て賛成多数で決定された。第2号議案『2023年度剰余金処分(案)』及び2024年度各種会計予算(案)、第3号議案『連合福島「規約にもとづく規則」の一部改訂について

(案)』も賛成多数で決定された。第4号議案『役員を選出について(案)』では、澤田会長をはじめ向こう2年間の新体制が確認された。

最後に『すべての働く者のための労働運動を県内全域で力強く展開し、地域社会から共感・信頼される連合福島運動の実現に向け力をあわせ邁進していこう』とした大会宣言が採択された後、澤田会長のガンバロー三唱をもって第37回定期大会を閉会した。

大会終了後には、「第20回福島県議会議員選挙勝利！連合福島支援候補予定者総決起集会」を開催し、県議選勝利に向けて意思統一を図った。



澤田会長のガンバロー三唱